



2023年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月8日

上場会社名 サンネクスタグループ株式会社
 コード番号 8945 URL <https://www.sunnexta.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高木 章
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理財務グループ長 (氏名) 吉田 勇
 四半期報告書提出予定日 2023年5月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5229-8839

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第3四半期の連結業績(2022年7月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第3四半期	5,984	△6.0	501	△6.3	501	△8.4	304	△82.2
2022年6月期第3四半期	6,368	2.6	534	2.4	547	0.3	1,710	477.1

(注) 包括利益 2023年6月期第3四半期 351百万円 (36.4%) 2022年6月期第3四半期 257百万円 (△75.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第3四半期	33.43	32.44
2022年6月期第3四半期	173.70	168.45

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第3四半期	11,450	7,549	64.6
2022年6月期	10,625	7,483	69.2

(参考) 自己資本 2023年6月期第3四半期 7,401百万円 2022年6月期 7,355百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	17.00	—	18.00	35.00
2023年6月期	—	18.00	—		
2023年6月期(予想)				18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の連結業績予想(2022年7月1日～2023年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,000	3.5	780	△11.6	820	△12.1	540	△72.7	59.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年6月期3Q	10,749,700 株	2022年6月期	10,692,700 株
------------	--------------	----------	--------------

② 期末自己株式数

2023年6月期3Q	1,632,636 株	2022年6月期	1,632,636 株
------------	-------------	----------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年6月期3Q	9,098,564 株	2022年6月期3Q	9,848,574 株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和により、正常化に向けた動きが見られたものの、エネルギー価格の高騰や物価の上昇に加え、世界的な金融引締めによる景気の減速懸念等から、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境においては、少子高齢化の進行や働き方の多様化の拡大による人手不足の深刻化により、企業によるアウトソーシングの需要は引き続き高い状況にあります。また、マンション管理市場においては、竣工戸数は微減傾向で推移しているものの、新築分譲マンションは毎年供給され続けており、マンションストック数の増加を背景に、堅調な伸びが続いております。

近年、新型コロナウイルス感染症の影響から新規顧客開拓の停滞や修繕工事の延期・先送りが発生しておりますが、企業や管理組合からの引き合い数の増加や修繕工事案件の増加など徐々に感染拡大前の水準に戻りつつあります。

このような状況のもと、当社グループは3年目となる中期経営計画「NEXT STANDARD 2025」を推進し、アウトソーシングの価値を最大化していくことへの挑戦を続けております。

2023年6月期においては、コロナ禍で停滞した新規受託の回復に注力するとともに、事業拡大と生産性向上への積極投資を継続しながら、アウトソーシング領域の拡大とオペレーションの変革をさらに推し進めております。

当第3四半期における連結業績は、以下のとおりであります。

売上高は59億84百万円（前年同期比6.0%減）、営業利益は5億1百万円（同6.3%減）、経常利益は5億1百万円（同8.4%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前連結会計年度に投資有価証券売却益の計上があったことなどから、3億4百万円（同82.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 社宅マネジメント事業

社宅マネジメント事業においては、企業における住宅制度・運用の見直しや周辺業務の更なる外部委託化から、社宅関連業務のアウトソーシングへの関心は高い状態を維持しております。

アウトソーシング領域の拡大に向けては、人事・総務向けBPOサービスが増加しており、新たな中堅企業向け社宅アウトソーシングのサービス提供も開始され、新規受託は回復傾向にありますが、前期に発生した一部の顧客における解約や特定業務の内製化の影響が残り、また、新サービスやデジタル化の投資費用が増加したことから、売上高は29億69百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益は9億円（同13.7%減）となりました。

② マンションマネジメント事業

マンションマネジメント事業においては、引合い数が増加する中、管理戸数が堅調に推移しております。また、小修繕工事や共同購買商品の増加に加え、不動産活用サービスにおける買取再販取引が増加しましたが、計画修繕工事の完工遅れやリフォームサービスを担う株式会社全日総管理が連結対象子会社から外れたこともあり、売上高は26億96百万円（前年同期比8.8%減）となりました。利益面では、欠員が生じたことによる人件費の減少やのれんの償却額が減少した結果、営業利益は1億50百万円（同39.3%増）となりました。

③ インキュベーション事業

インキュベーション事業においては、24時間対応のコールセンターサービスのほか、複数のサービスが増加したことから、売上高は3億18百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は10百万円（前年同期は5百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ8億25百万円増加し、114億50百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ7億26百万円増加し、83億62百万円となりました。これは主に営業立替金の増加34億41百万円、現金及び預金の減少31億29百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ99百万円増加し、30億88百万円となりました。これは主にソフトウェアの増加81百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ7億59百万円増加し、39億1百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ7億29百万円増加し、31億95百万円となりました。これは主に短期借入金が増加13億円、未払法人税等の減少6億30百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ30百万円増加し、7億6百万円となりました。これは主に繰延税金負債の増加34百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ66百万円増加し、75億49百万円となりました。これは主に保有株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加38百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年6月期の通期連結業績予想につきましては、2022年8月10日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,634,168	2,505,056
売掛金及び契約資産	349,051	314,346
営業立替金	1,132,312	4,574,088
商品	1,704	1,935
販売用不動産	171,507	221,831
仕掛品	8,247	7,055
貯蔵品	10,406	10,168
その他	332,330	734,059
貸倒引当金	△3,339	△5,873
流動資産合計	7,636,390	8,362,668
固定資産		
有形固定資産	227,031	247,599
無形固定資産	348,945	420,403
投資その他の資産		
投資有価証券	2,145,344	2,125,182
その他	267,439	295,104
貸倒引当金	—	△23
投資その他の資産合計	2,412,783	2,420,263
固定資産合計	2,988,761	3,088,265
資産合計	10,625,151	11,450,934
負債の部		
流動負債		
買掛金	164,560	129,397
短期借入金	—	1,300,000
未払法人税等	692,654	62,427
営業預り金	641,150	722,782
賞与引当金	52,997	144,425
役員賞与引当金	9,520	8,416
株主優待引当金	8,055	—
その他	897,657	828,243
流動負債合計	2,466,595	3,195,693
固定負債		
退職給付に係る負債	193,965	191,873
繰延税金負債	479,236	513,949
その他	2,170	217
固定負債合計	675,371	706,040
負債合計	3,141,966	3,901,733
純資産の部		
株主資本		
資本金	972,383	988,033
資本剰余金	727,333	742,983
利益剰余金	5,580,378	5,557,405
自己株式	△1,187,197	△1,187,197
株主資本合計	6,092,898	6,101,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,262,307	1,300,414
その他の包括利益累計額合計	1,262,307	1,300,414
新株予約権	127,978	147,561
純資産合計	7,483,184	7,549,200
負債純資産合計	10,625,151	11,450,934

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
売上高	6,368,903	5,984,843
売上原価	4,789,997	4,568,712
売上総利益	1,578,905	1,416,130
販売費及び一般管理費	1,044,017	914,975
営業利益	534,888	501,154
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,547	1,519
受取手数料	899	648
還付加算金	1,785	—
受取保険金	—	822
補助金収入	7,453	1,664
その他	2,732	489
営業外収益合計	14,418	5,144
営業外費用		
支払補償費	176	3,512
その他	1,610	1,046
営業外費用合計	1,787	4,559
経常利益	547,519	501,739
特別利益		
投資有価証券売却益	1,903,068	—
関係会社株式売却益	51,494	—
新株予約権戻入益	5,164	4,088
特別利益合計	1,959,727	4,088
特別損失		
固定資産除却損	308	27
投資有価証券評価損	—	30,000
減損損失	7,758	—
特別損失合計	8,067	30,027
税金等調整前四半期純利益	2,499,179	475,799
法人税等	788,467	171,584
四半期純利益	1,710,711	304,215
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,710,711	304,215

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	1,710,711	304,215
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,452,928	38,107
その他の包括利益合計	△1,452,928	38,107
四半期包括利益	257,783	342,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	257,783	342,322
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

(連結の範囲の重要な変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

当社グループは、不動産賃貸借契約に基づき使用するオフィスについて、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する資産の使用期間が明確ではなく、移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができず、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりませんでした。

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ子会社の一部オフィスについては、移転の方針を決定したことにより、原状回復に係る債務の履行時期を合理的に見積ることが可能となったため、原状回復費用及び使用見込期間に関して見積りの変更を行いました。

この見積りの変更により、当第3四半期連結会計期間の負担に属する金額を費用に計上しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は4,150千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	社宅マネ ジメント 事業	マンショ ンマネジ メント事 業	インキュ ペーショ ン事業	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	3,118,906	2,954,738	295,258	6,368,903	—	6,368,903
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	889	5,516	54,460	60,867	△60,867	—
計	3,119,796	2,960,254	349,719	6,429,770	△60,867	6,368,903
セグメント利益又は損失(△)	1,043,071	108,106	△5,421	1,145,757	△610,868	534,888

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△610,868千円は、セグメント間取引消去10,211千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△621,080千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「インキュベーション事業」セグメントにおいて、無形固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において7,758千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間末において、当社の連結子会社である株式会社全日総管理(マンションマネジメント事業)の全株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、のれん金額に重要な変動が生じております。

当該事象によるのれんの減少額は、178,722千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年7月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	社宅マネ ジメント 事業	マンショ ンマネジ メント事 業	インキュ ベーショ ン事業	合計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	2,969,802	2,696,045	318,995	5,984,843	—	5,984,843
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	310	4,478	57,440	62,228	△62,228	—
計	2,970,112	2,700,523	376,435	6,047,071	△62,228	5,984,843
セグメント利益	900,487	150,592	10,456	1,061,537	△560,382	501,154

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△560,382千円は、セグメント間取引消去14,402千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△574,785千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(資産除去債務の認識)

(会計上の見積りの変更)に記載のとおり、当第3四半期連結会計期間において、当社グループ子会社の一部オフィスについて移転の方針を決定したことにより、資産除去債務の認識を行っております。これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益が「社宅マネジメント事業」で4,150千円減少しております。